

2026 年 9 月 2 日

報道各位

株式会社いい生活

「いい生活売買クラウド 営業支援」での媒介報告機能をリリース

生成 AI による下書き作成機能で報告作成業務を大幅短縮

バーティカル SaaS（with AI）で不動産ビジネスを進化・加速させ、業界の AI トランスフォーメーション（AX）を推進する株式会社いい生活（東京都港区、代表取締役社長 CEO：前野 善一、東証スタンダード：3796、以下：いい生活）は、「いい生活売買クラウド 営業支援」において媒介報告作成機能をリリースしたことをお知らせします。従来「いい生活売買クラウド」で提供してきた媒介報告作成機能に加え、「いい生活売買クラウド 営業支援」上で実績の自動集計機能と生成 AI による本文の下書き作成機能も加わり、媒介報告書作成の業務負担をさらに軽減します。

NEW RELEASE

媒介報告作成機能をリリース

- 生成AIによる下書き作成機能で報告作成業務を大幅短縮
- 報告に必要な情報を自動で集計、作成から送信、報告履歴の管理まで一気通貫

 いい生活 売買クラウド
営業支援



バーティカルSaaS(with AI)で不動産ビジネスを進化・加速させ、
業界のAIトランスフォーメーション(AX)を推進する

 不動産市場に、テクノロジーを
いい生活

■ 開発の背景と機能概要

不動産仲介会社を通して不動産を売却する際には、売主と不動産仲介会社は売却物件の媒介契約を締結し、不動産会社は売主に対して受託業務の状況報告を行います。専属専任媒介契約・専任媒介契約では報告が法令で義務づけられており、一般媒介契約においても売主への満足度向上サービスとして不動産会社が業務の状況報告を行う場合があります。

報告書の作成にあたっては、ポータルサイトへの掲載状況、買主からの反響、物件の紹介・案内の履歴といった多岐にわたる情報を、それぞれ別の場所で確認したうえで、手作業で集計する必要がありました。報告のたびに繰り返し発生するこの作業が、報告担当者の負担となっています。

今回リリースした媒介報告機能は、報告に必要な情報を一つの画面に集約し、実績の集計から報告本文の作成、売主への送信までの一連の流れを「いい生活売買クラウド 営業支援」上で行えるようにするものです。報告本文の下書きを生成 AI が作成する機能を新たに搭載し、報告担当者の負担を大幅に削減することが可能となりました。

本機能の内容は以下の通りです。

1. 報告に必要な情報を自動で集計

報告対象の期間を指定するだけで、期間内の反響・紹介・案内・申込みの件数と、媒体ごとのインターネット広告実績を自動で集計。ポータルサイトへの掲載状況や、物件を紹介・案内した履歴も同じ画面で確認でき、報告に必要な情報を探して回る手間を解消。

2. 生成 AI が報告本文を下書き

集計した実績をもとに、挨拶・今期の所感・次期の方針を生成 AI が作成。反響が得られなかった期間についても、実施した広告活動と次に打つ施策を踏まえた文面を作成でき、担当者は内容を確認・清書するだけで報告書が完成。

3. 作成から送信、報告履歴の管理まで一気通貫

作成した報告書は、「いい生活売買クラウド 営業支援」上でそのまま売主へ送信することが可能。送信を検知して自動的に報告済みとして記録し、次回の報告予定日も報告頻度に応じて自動で更新されるため対応漏れや重複を防止。過去の報告は履歴として蓄積され、いつ・どの手段で報告したかをさかのぼって確認可能。

当社は今後も、テクノロジーの力で不動産業界の DX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させ、営業担当者がより付加価値の高い業務に集中できる環境を提供してまいります。

■ いい生活のセキュリティ対策

当社は、以下の 3 つの柱により、お客様のデータを「構造的」に守り続けています。

1. 構造的分離

当社のオフィス（社内環境）と、お客様のデータを管理するデータ金庫（SaaS 環境）は「海を隔てた別の島」のように完全に分断されています。万が一、社内 PC がウイルスに感染しても、SaaS 環境への道を構造的に遮断しているため、二次感染が発生しない仕組みを構築しています。

2. ゼロトラスト（※1）

「誰も信用しない」ことを前提としたゼロトラストアーキテクチャを採用し、社内アクセスも空港の保安検査レベルで都度検証するモデルを採用しています。多要素認証（MFA）を徹底し、常に厳格な本人確認を実施しています。

3. クラウドネイティブ（※2）

RDP（遠隔操作）を利用する方式とは異なり、ブラウザや API 通信による方式を一貫して採用しています。限定された指示データのみを通し、ウイルスの主要な感染経路となるドライブ共有等の仕組み自体が存在しないため、リスクを構造的に排除しています。

また、いい生活は、情報セキュリティ規格である ISO/IEC27001（ISMS）をはじめ、クラウドセキュリティ規格である ISO/IEC27017（ISMS-CLS）、IT サービスマネジメント規格である ISO/IEC20000（ITSMS）の 3 つの国際認証を取得し、厳格な運用を続けています。

いい生活は、単なるソフトウェアベンダーではなく、お客様のビジネス継続性を最優先に考える戦略的パートナーとして、今後も「止まらない不動産実務基盤」を提供し続けます。

※1 ゼロトラスト：「社内ネットワークだから安全」という従来の性善説を捨て、「すべてのアクセスを疑い、その都度検証する」という考え方

※2 クラウドネイティブ：既存のソフトウェアを単にクラウド上の「場所」に置くのではなく、「最初からクラウドで動くことを前提」に設計・構築されたシステムのこと

● いい生活売買クラウド 営業支援 <https://www.es-service.net/service/sale-sales-support/>

売買流通業務における売主追客・買主追客・媒介契約管理を支援する SaaS です。AI 活用機能と組み合わせ、不動産会社の営業活動の高度化と効率化を実現します。不動産の売買業務において発生するお客様からの問い合わせや反響、追客業務、来店対応などの業務を効率的に行うためのシステムです。自動返信メールや一元管理された顧客情報などを活用して、顧客との迅速かつ正確な対応を可能にし、顧客満足度の向上に貢献しています。また、来店予約の調整や来店記録の共有などもシステムで一元管理されるため、不動産業務の生産性向上にも寄与しています。

● 株式会社いい生活 会社概要 <https://www.e-seikatsu.info/>

いい生活は「テクノロジーと心で、たくさんのいい生活を」というミッションを掲げ、不動産業務クラウドサービス、不動産プラットフォームサービスを提供する不動産テック企業です。不動産市場の法改正やIT化に迅速柔軟に対応し、不動産業務を網羅するフルラインナップのSaaSで不動産市場のDXを推進しています。いい生活は、不動産市場に関連する企業はもちろん日本各地のエリアに寄り添ったソリューションで、「心地いいくらしが循環する、社会のしくみをつくる」ビジョン実現を目指します。

- 商 号： 株式会社いい生活
- 所 在 地： 東京都港区南麻布五丁目2番32号 興和広尾ビル 3F
- 設 立： 2000年1月21日
- 資 本 金： 628,411,540円（2026年3月末現在）
- 事業内容： 不動産市場向けSaaSの開発・提供

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社いい生活 マーケティング本部 広報部

TEL：03-5423-7836（平日 9時～18時）

E-Mail：contact.pr@e-seikatsu.co.jp